



# まほろん通信

VOL. 2

(平成13年10月15日発行)  
(財)福島県文化振興事業団  
福島県文化財センター白河館  
〒961-0835  
福島県白河市白坂字一里段86  
TEL 0248-21-0700(代)  
FAX 0248-21-1075  
URL <http://www.mahoron.fks.ed.jp>



## 「まるごと体験 まほろん ろん」盛況のうちに幕

8月5日夏空の下、まほろんのオープンを記念して開館記念イベント「まるごと体験 まほろん ろん」が、1,500名の来館者の参加を得て盛大に行われました。

まほろんは、「見て・触れて・考え・学ぶ」ことをテーマにしていることから、体験学習をイベントの中心にし、「体験学習フェスティバル」と名付けました。体験学習フェスティバルでは、国内の体験学習の各分野で活躍する方々を講師としてお招きし、黒曜石を加工しての石器づくり、モデルになる土器を模倣しての縄文土器づくり、鹿角を加工しての釣り針製作、弓ぎりを用いての火おこし、縄文鍋料理づくり等を来館者の皆さんに体験していただきました。

夕方からは、地元の小学生親子の協力を得て、弓ぎり、舞ぎり、火打ち石、薬品などのいろいろな方法で火をおこし、その火をやぐらに点火する「まほろんファイヤー」が行われました。地元の小学生親子がおこした火をやぐらに点火する際には、白河第五小学校の6年生の皆さんが時代衣装を身につけ、知事と一緒に「過去から未来へ、うつくしまの火をつなごう」というかけ声とともに点火しました。(上の写真参照)

その後イベントは、白河第五小学校の6年生の皆さんによるまほろんのイメージソング「ろんろんまほろん」の合唱、Yaeさんのミニコンサートへと続き、会場の盛り上がりも最高潮に達しました。最後には、まほろん職員全員で「月夜のまほろん」を合唱し、長い一日は終了しました。

ご来館、  
ありがとうございました。



## 体験学習

### 体験発掘？ツアーに行ってきました

9月2日の日曜日、体験発掘ツアーに行ってきました。参加者は、ご家族連れや高校生、最年少は4歳の男の子と多彩な顔ぶれです。集まってみると、見覚えある方たちがたくさんいらっしゃいました。聞くと以前にも勾玉をつくりに来てくれた子や、8月5日のイベントに参加してくれた方々でした。何度も「まほろん」に来ていただけるのは本当にうれしいかぎりです。

心配したお天気も上々、意気揚々とバスで出かけて遺跡に到着。場所は矢祭町の「高渡遺跡」です。矢祭町教育委員会にご協力いただき、発掘調査を体験することができました。ありがとうございました。

高渡遺跡からは、7千年くらい前の縄文土器から、千年くらい前の平安時代のものまで、様々な時代のものが出ています。昔の家だった「竪穴住居」や、動物を捕まえた「落とし穴」もみついています。

さて、私たちが発掘したのは縄文時代の、むずかしい言葉で言うと「遺物包含層」でした。簡単に言ってしまうと昔のゴミ捨て場です。昔、捨てられたものでも、何千年もたてば貴重な資料になるわけです。

掘りはじめてすぐ、引率の松本主任学芸員が土器のかけらを見つけました。土器の模様をみみると6千年くらい前のものであることがわかりました。

「よし、この分だとザルにいっぱいくらいの土器は出てくるかな。」と、ほくそ笑んだのもつかの間、その後みんなで一生涯懸命に掘っても掘っても何にも出てきません。「縄文時代でも古い方の土器だから、めったに出てこないんですね。」「出ないことを確認するのも大事な作業なんです。」などなどの苦しい言い訳も底をつ



<みんなで落とし穴に入ってみました>

### まほろん体験イベント募集のおしらせ

行事名	実施日	募集人数	募集〆切	材料費	対象	内容
古代の機織りに挑戦	11月18日	なし	申込不要	無料	どなたでも	弥生時代の機織りを体験
まほろん餅つき大会	12月2日	20	10月28日	無料	小学生以上	「古代の畑」のモチ米で餅つき体験
縄文の楽器をつくろう	12月16日	20	10月28日	200円	小学4年生以上	竹笛作り
凧をつくろう	1月20日	20	12月3日	200円	小学4年生以上	竹ひごや和紙での凧作り
ひな祭り	3月3日	20	1月14日	200円	小学生以上	紙や粘土での「人形」作り

応募方法：往復ハガキにお名前、年令、住所、電話番号と参加希望の行事名をご記入の上、それぞれの係までお申し込みください。

き、ついにタイムアップ。結局、25名で掘って3片の土器が出てきたただけでした。

帰りのバスの中、さすがに参加者のみなさんも落胆と疲労の色は隠せず、「まほろん」に着くころには眠っている方がほとんどでした。参加者のみなさんごめんなさい。それでも何人かの方は気を取り直し、体験活動室で土器の拓本をとったりして遊んでいってくれました。その姿に救われた思いがした1日でした。



<1つめの土器を発見！>

### この夏の体験活動室

まほろんの体験活動室では、いつ、どなたがいらっしゃっても、なにかしらの体験ができるようにしています。学校の夏休み期間中、体験活動室は大にぎわいでした。一年を通してやっている「勾玉づくり」は特に人気で、何回も来てたくさん作ってくれたベテランさんもいました。「火おこし」では、みなさん執念を燃やし、なかなか火がつかなくてもあきらめずにガンバってくれました。「古代の衣装を着てみよう」は鎌倉時代の直垂(ひたたれ)や江戸時代の打掛(うちかけ)に人気が集まり、カメラを忘れて残念がっている方もいました。



<お姫様になってみました>

## 第2回開館記念特別展

まほろんの開館を記念する第2回の特別展を開催いたします。タイトルは「復元！三角縁神獸鏡」、期間は平成13年10月27日（土）～12月2日（日）、場所は当館特別展示室となっています。

この展示は、まほろんの整備業務で行ってきた会津大塚山古墳出土の三角縁神獸鏡の復元をテーマに、古代の鑄造技術と復元研究の成果を展示します。

展示のおもな内容は以下の通りです。

### 第部 福島三角縁神獸鏡はこうして出土した

東北地方で唯一、三角縁神獸鏡を出土した会津大塚山古墳と、その出土品を紹介します。古墳時代の大型前方後円墳に副葬された品々を展示します。

### 第部 鏡を観察してみよう

会津大塚山古墳の三角縁神獸鏡には、そっくり同じ形をした兄弟鏡が、岡山県の鶴山丸山古墳から出土しています。この2枚の鏡をくわしく観察してみます。じっくり目を凝らすと、そっくり同じ形の2枚の鏡がどのようにして作られたか、ヒントを見つけ出すことができます。

### 第部 鏡はこうして復元した

観察の結果、これらの鏡は1つの鑄型を使って作ったのではないかと考えられます。

まほろんでは、鑄物職人さんをお願いして観察でわ

かった方法ができるかどうか、実験を行って確かめながらこの三角縁神獸鏡を復元しました。鏡は鑄型に溶かした銅を流し込んで作ります。そのようすを、実際に実験や復元に使った鑄型を展示して説明します。

復元は見事に成功し、一つの鑄型から2枚の鏡を作ることができました。

このほか、福島県や隣接する県から出土した銅鏡がまほろんに集まります。古墳時代から中世まで、時代ごとに銅鏡はいろいろな種類のもので作られています。

鑄造製品は身近にもたくさんあります。まほろんでは現代の鑄造製品も展示します。えっ、こんなものも鑄造製品なの？と思うようなものもあるかもしれません。乞うご期待！



## 特別展記念講演会のご案内

日時 11月11日（日）午後1:30～3:00

場所 まほろん講堂

講師 鈴木勉先生（奈良県立橿原考古学研究所所員）

演題 「最先端技術があかす三角縁神獸鏡のナゾ」

内容 鈴木先生は三次元レーザー計測器など、これまでの研究になかった最先端技術を使った新しい方法で三角縁神獸鏡の研究をしています。先生には三角縁神獸鏡のナゾをいかにして明らかにしたかお話しいただきます。

## シリーズ復元展示

### 三角縁神獸鏡の復元 その2

#### 三角縁神獸鏡復元チームの面々

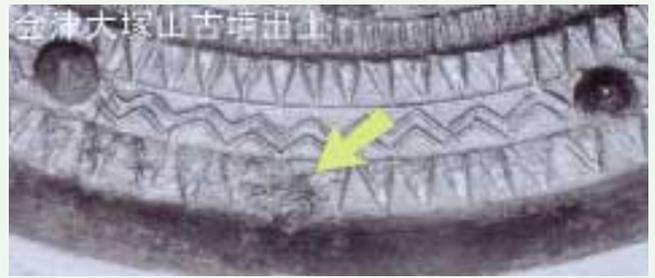
鏡の鑄造には専門的な知識と技術が必要で、二人の専門家の協力をえることになりました。一人は製作技術の面から三角縁神獸鏡の研究を進める鈴木勉さんです。鈴木勉さんは、わずかなカタチの違いも計測できるレーザー計測器などの最先端技術を用いて、あらたな視点から三角縁神獸鏡の研究を行っています。もう一人は、茨城県真壁町の創業800年をほこる小田部鑄造の御鑄物師、第37代目小田部庄右衛門さんです。小田部さんは各地で鑄物の修行をつみ、現在は小田部鑄造で梵鐘の鑄造を得意とする御鑄物師です。この面々が力を合わせて三角縁神獸鏡の復元をすることとなりました。

#### 鏡の観察と復元の手がかり

さて、この三角縁神獸鏡、東北地方からも一面だけ出土しています。福島県会津若松市にある会津大塚山古墳という全長114mの前方後円墳から出土したものです。現在のところこの鏡がもっとも北で出土した三角縁神獸鏡で、復元のモデルに選んだのはもちろんこの鏡です。

この鏡と同範と考えられている鏡がもう一面だけ存在しています。岡山県の鶴山丸山古墳から出土した鏡です。まずこれらがどのように作られているかを調べるため、福島県立博物館のご協力で観察を行いました。

博物館の一室で、三角縁神獸鏡にじっと目をこらし、



< 同じ場所についた傷（黄矢印）がある一方で鶴山丸山古墳出土の鏡にしかない傷（青矢印）もある >

文様の一つ一つをチェックした結果、二枚の鏡の同じ場所に同じ形の傷がついていること、両方の鏡の同じ場所にある傷でも、一方はより進行していることなどがわかりました（写真参照）。ほかに、鑄型の一部を手直したらしい箇所もみつかりました。このことから、2枚の鏡は、どうやら同じ鑄型から作られた、つまり同範技法によって作られた可能性のあることが確認されました。

この観察の結果、まほろんに展示する三角縁神獸鏡をどのように復元するかを考える重要なヒントをたくさん得ることができました。（つづく）

## 研修課より

### 文化財研修やってます

8月初旬に教職員を対象とした特別研修を白河市下総塚古墳で開催したのを皮切りに、9月末までに合計5回の文化財研修を実施しました。これまでに、県内で、土坑調査(塩川町)、試掘調査(小高町)、測量(白河館)、特殊遺構調査(白河市)の研修を行いました。

まほろんの研修は、日頃市町村で文化財保護を担当している職員などを主な対象としており、内容は専門的です。また、「研修受講者のレベルにきめ細かく対応した、実習重視の研修」をモットーにしています。

発掘調査経験の少ない方を対象とした土坑調査研修では、土坑調査の基本的な流れを、実際に土坑を掘りながら研修することができました。また、小高町浦尻貝塚で開催した試掘調査研修では、貝層の検出・記録を行い、併せて貝塚調査の際に重要な貝層のサンプリング法についても学びました。測量研修では、測量機

器の設置や使用方法について、実践的な内容を身に付けてまで繰り返し行いました。

まほろんでは、これからも市町村等職員や教職員などを対象にした様々な研修を準備しております。詳しくはホームページをご覧ください。奮って研修にお申し込みください。



< 教職員発掘調査研修のようす >

## 総務管理課より

### 収蔵資料利用のご案内

まほろんでは、収蔵する資料をより広く活用できるよう閲覧・貸出し・見学等の希望に応じています。

#### 遺物の閲覧

遺物の館内閲覧を希望する場合は、まほろんに直接申し込んでいただきます。なお、閲覧を希望される資料の内容等、事前の打ち合わせが必要となります。

#### 遺物の館外貸出し

まほろんでは、教育・研修・普及・研究等で公益目的に利用する場合、収蔵する遺物を貸出します。貸出しを希望する場合は、所定の申請書をまほろんを通じて県教育委員会に提出していただきます。ただし、管理条件等により貸出しができない場合があります。

#### 一般収蔵庫・資料の見学

まほろんでは、常設展示から一般収蔵庫のなかの様子をいつでものぞいて見ることができます。また、団体等で事前の申し込みがあれば一般収蔵庫のなかを見

学もできます。なお、資料の利用に関わる詳細については、総務管理課までご相談ください。また、まほろんのホームページもご覧ください。

#### 入館者 10,000 人到達!

8月17日、開館以来の入場者が一万人に達しました。記念となる一万人目の入館者は、高野翼君(白河三小3年)で、認定証・記念品などが贈られました。



< 復元住居の前で記念撮影 >

## まほろんからのお知らせ

### ボランティア募集

**活動内容** 古代体験学習のお手伝い、展示室や野外展示での案内・解説、古代の畑での作物栽培、土器や石器などの収蔵資料の整理など

**募集期間** 平成13年10月2日(火)～10月31日(水)

**資格** 満15歳以上(中学生を除く)の健康で活動可能な方

**申し込み** はがき又はFAXで住所・氏名・年令・電話番号をお知らせください。

**その他** 12月上旬に登録前説明会を行います。平成14年の1～3月の期間に登録前一般研修を実施します。

平成14年4月から活動を開始します。

### ご利用案内

**開館時間** 9:30～17:00(入館は16:30まで)

**休館日** 月曜日(月曜日が祝日・休日の場合は開館し、その翌日が休館)、国民の祝日の翌日(土曜日・日曜日にあたる場合は開館)

**入館料** 無料(体験学習を行う場合は、材料費をご負担いただきます。)

**その他** 団体(20名以上)でご利用の場合は、事前にご予約ください。

正規ホームページを開設しました。

まほろんの情報や県内文化財情報が載っています。

<http://www.mahoron.fks.ed.jp>